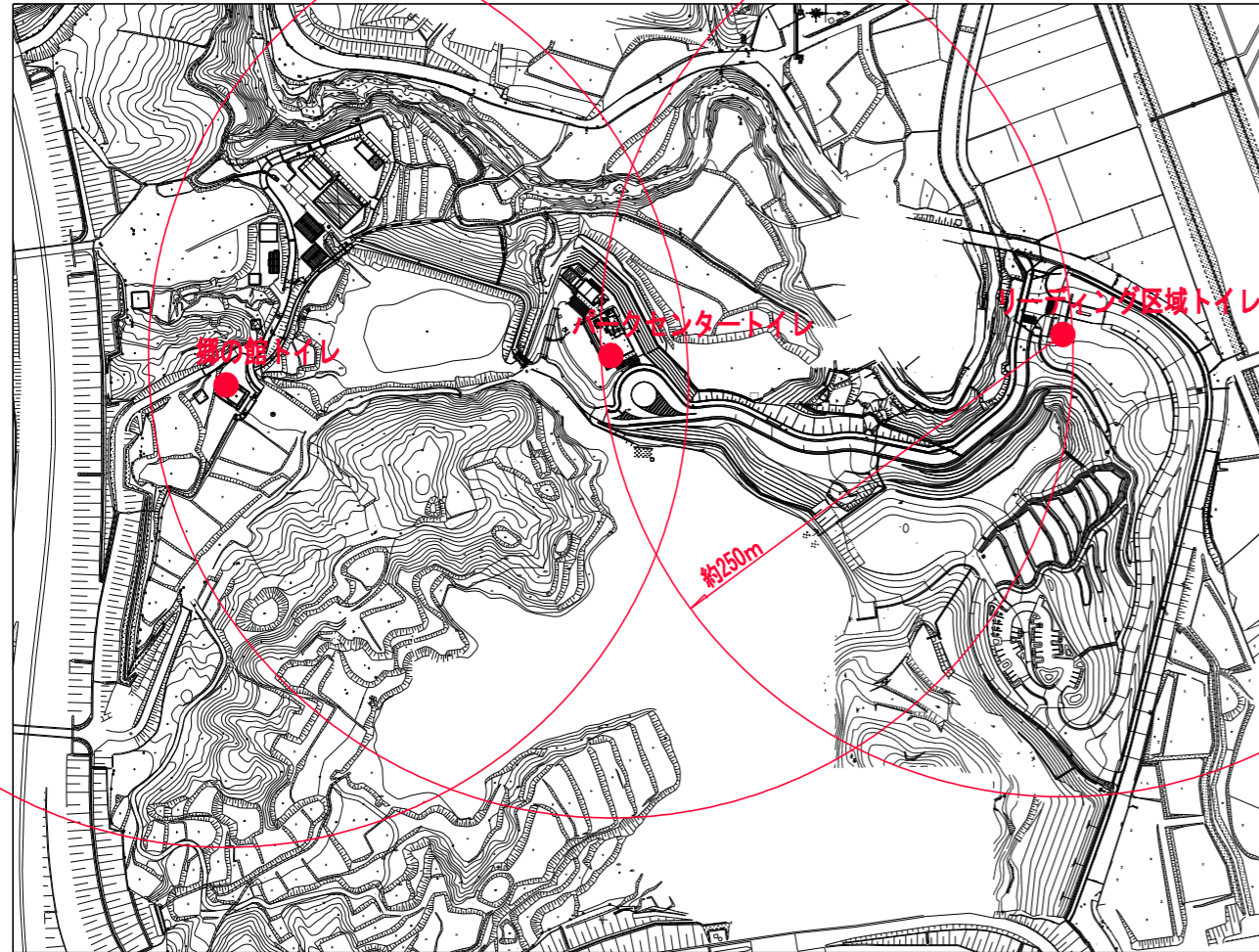


■ トイレ全体配置計画 ■



■ トイレ全体配置計画の考え方 ■

○計画の経緯

- ・基本設計において、駐車場周辺エリアにトイレを設置することが検討されている。
- ・平成21年の中地区実施設計において、エントランス付近にトイレを設置することが検討されている。
⇒ 既存のトイレ施設との関係などを考慮して、トイレ配置の考え方を再整理するものとする。

○配置計画

- ・泉佐野丘陵緑地中地区は、エントランス付近から奥に位置する郷の館付近までの距離が約500mある。
- ・公園内トイレの配置間隔は、一般的に約250mといわれている。
- ・泉佐野丘陵緑地の利用形態は、少人数の拡散的な利用となることが予測され、研修やレクチャーに利用される郷の館とパークセンター、来園者が溜まるエントランス付近が人が集まる場所と考えられる。
⇒ 一般的な配置間隔と、利用想定から考えて、エントランス付近にトイレを配置するものとする。
- ・配置位置は、現況林を背景とすることで景観的にも阻害しない場所として、エントランスから向かって左手側とする。

○トイレの意匠

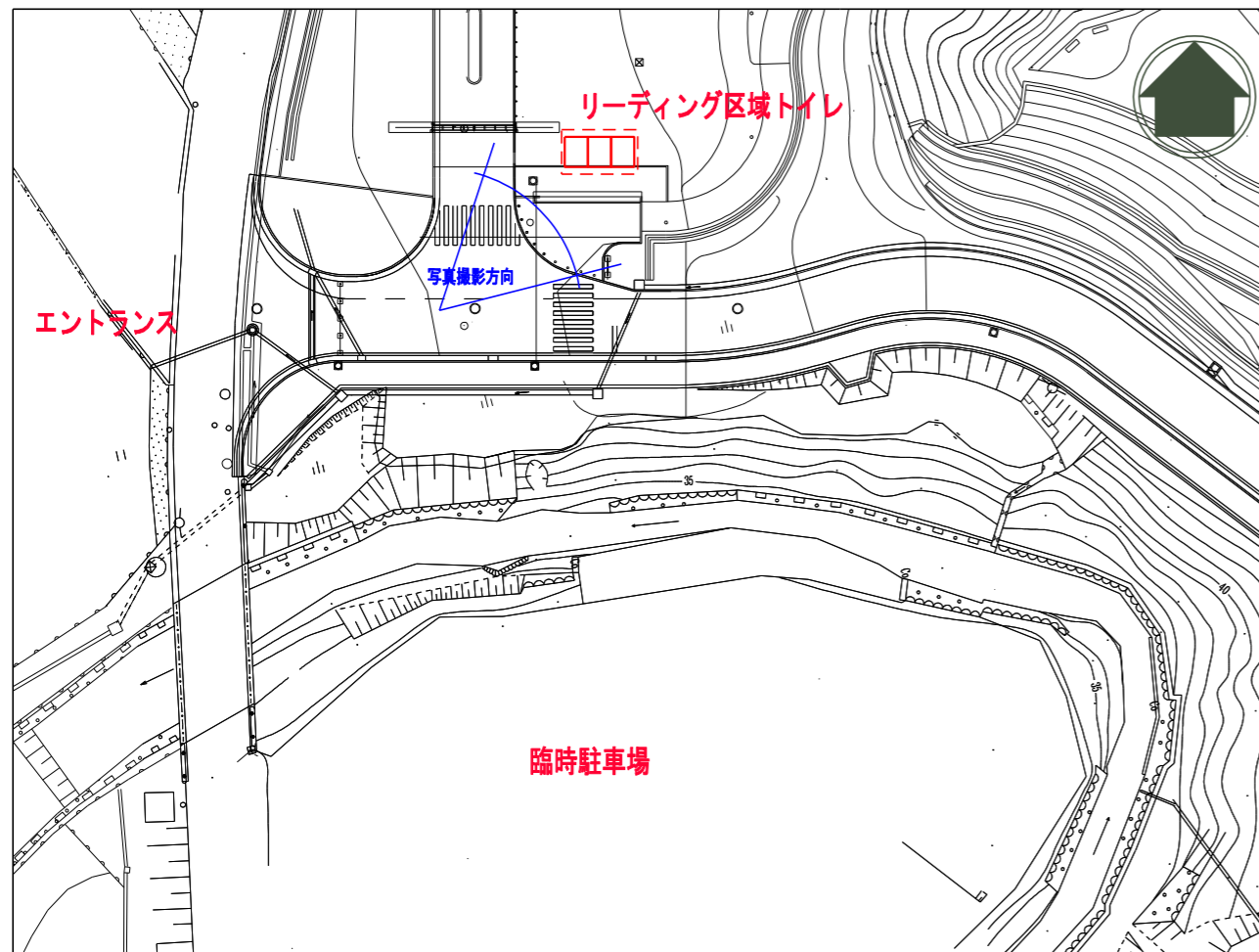
- ・公園エントランス付近に設置するトイレについては、構造はPCユニットタイプとする。
- ・公園のテーマや雰囲気、景観などに配慮して、切り妻屋根とし、腰壁などには木化粧を施す。
- ・木部や壁面の色合いについては、公園の他の施設や建築との調和を図る。
- ・トイレは、里の環境や活動をテーマとする本公園のコンセプトに適した意匠とする。
- ・トイレの前面に設置する目隠しの化粧壁には、公園案内サインなどを付加して、多機能な化粧ウォールとする。

※間取りの広さ、建築意匠のバランス等を考えて、PC壁造の3連タイプとする。
(ただし、多目的ブースは男女共用となる。)

※非常警報

- ・多機能トイレの警報設備として、トイレの屋外に警報灯 (パトライト) を設置する。
- また、警報はパークセンターにも連絡されるシステムとする。

■ リーディング区域トイレ配置図 ■



■ リーディング区域トイレ計画地現況と整備イメージ ■



■ トイレ規模 ■

○トイレの規模 (参考)

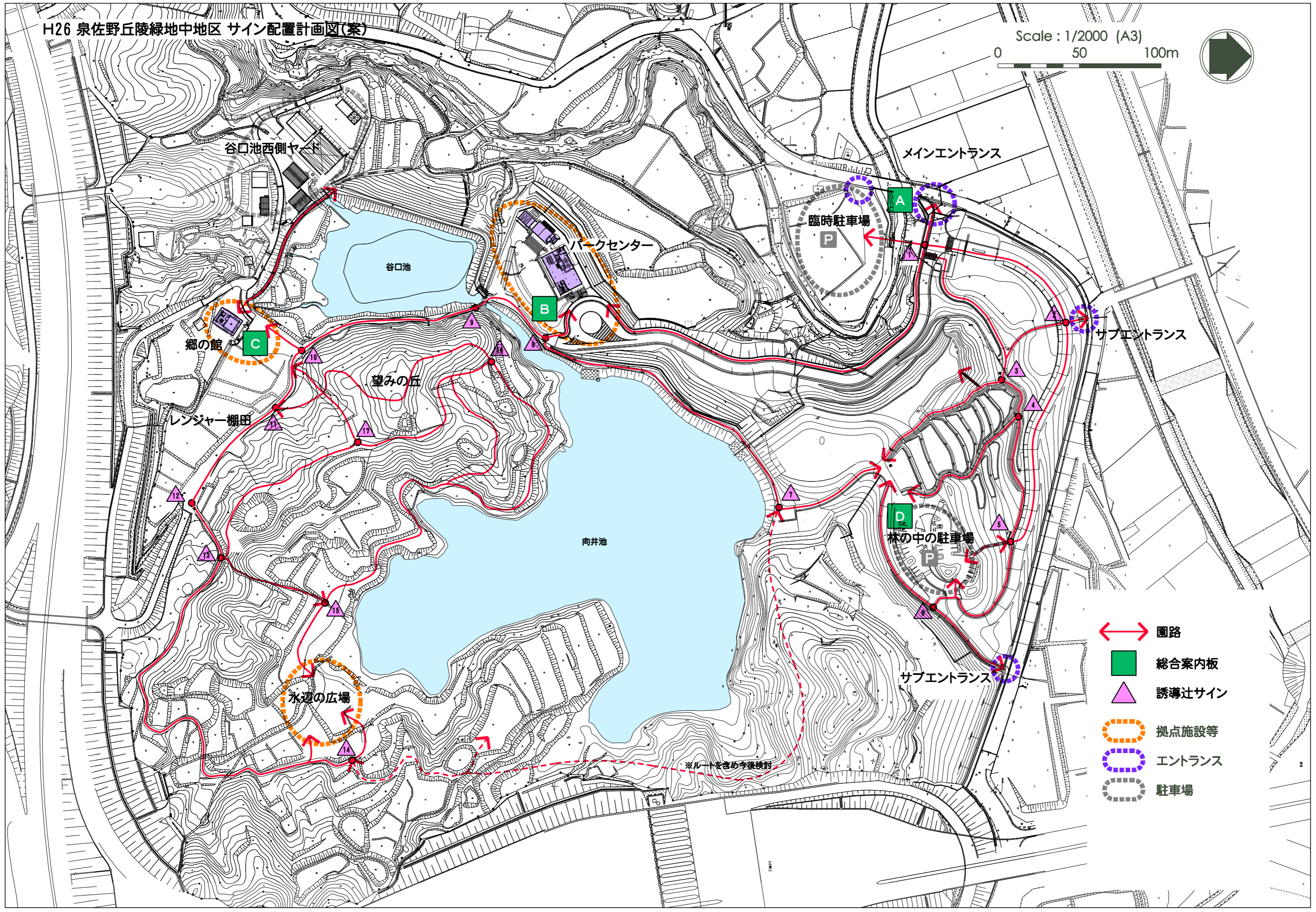
施設規模 (穴数)	郷の館	パークセンター	リーディング区域トイレ
男 (大)	1	2	1
男 (小)	2	2	2
女 (大)	2	4	2
多機能	1	1	1

■ 目隠し壁イメージ (参考) ■



H26 泉佐野丘陵緑地中地区 サイン配置計画図(案)

Scale : 1/2000 (A3)
0 50 100m



- 園路
- 総合案内板
- 誘導辻サイン
- 拠点施設等
- エントランス
- 駐車場

1. サイン施設の考え方

■サイン施設設置方針

- ・『つくり続ける公園』であることから、総合案内板も含めて活動・プログラム等に対応できるものとする。
- ・可能な限りパーククラブとの協働によるハンドメイドの可能性を検討する。
- ・設置は必要最小限とし、利活用状況や整備状況にあわせた成長型の整備を行なう。
- ・公園供用開始時点では基本となるサイン(総合案内板)と必要最小限の辻サインを設置する。
- ・その他のサインについては、トータルデザインのルールに基づき、形、素材、色を統一しながら設置していく。

■サイン施設のイメージ

[形]

- ・パークセンターや郷の館の意匠をイメージしたデザインとする。

[素材]

- ・素材は本公園の特徴(テーマ)に合った国内産(近畿圏産)の木材を使用する。

[色]

- ・本体の色は、パークセンターの内装の意匠と合わせて、木などの自然素材の色を活かしたものとする。
- ・表示面については、デザインコードを踏まえ日本の伝統色を使用する。

■サインのデザインモチーフ



・パークセンターの組み柱(白木色)

■サインのアクセントカラー

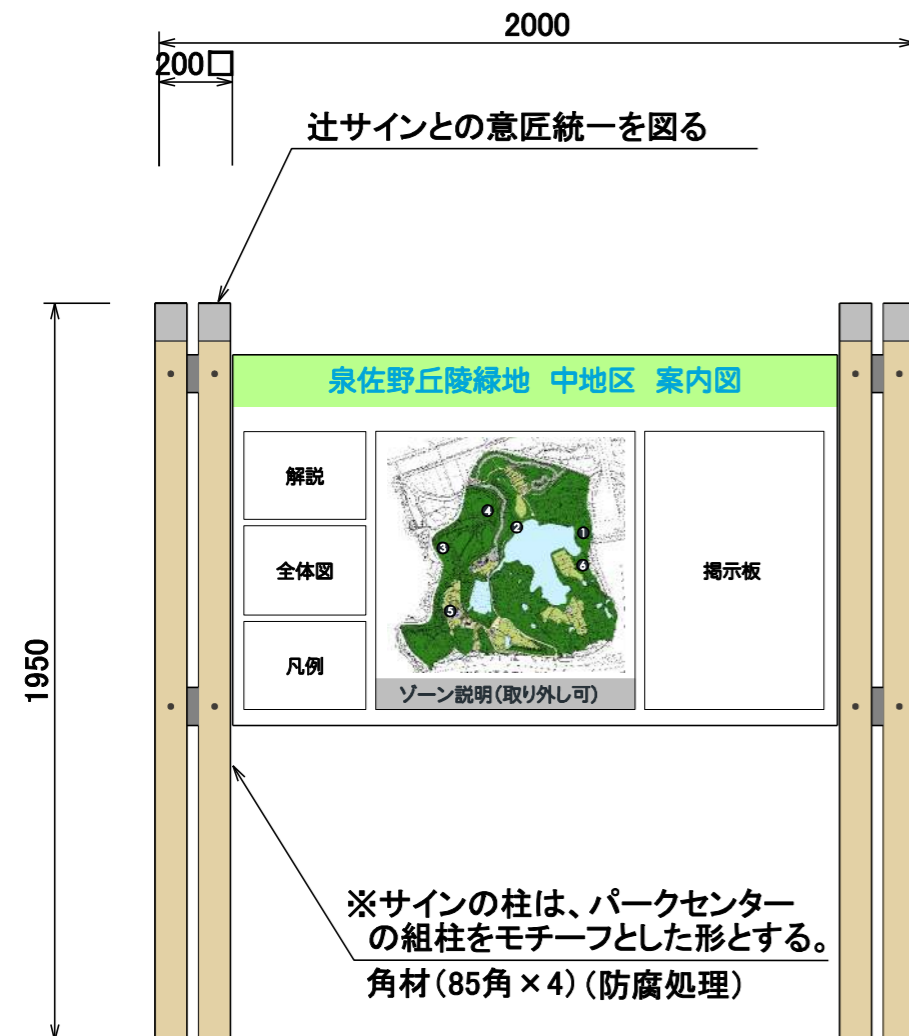
- ・サイン柱の頂部のアクセントカラーは、周囲の自然の色の中で識別しやすい色(例えば灰鼠【はいねず】:日本の伝統色)などを用いる。



・灰鼠(日本の伝統色)

2. サイン施設イメージ

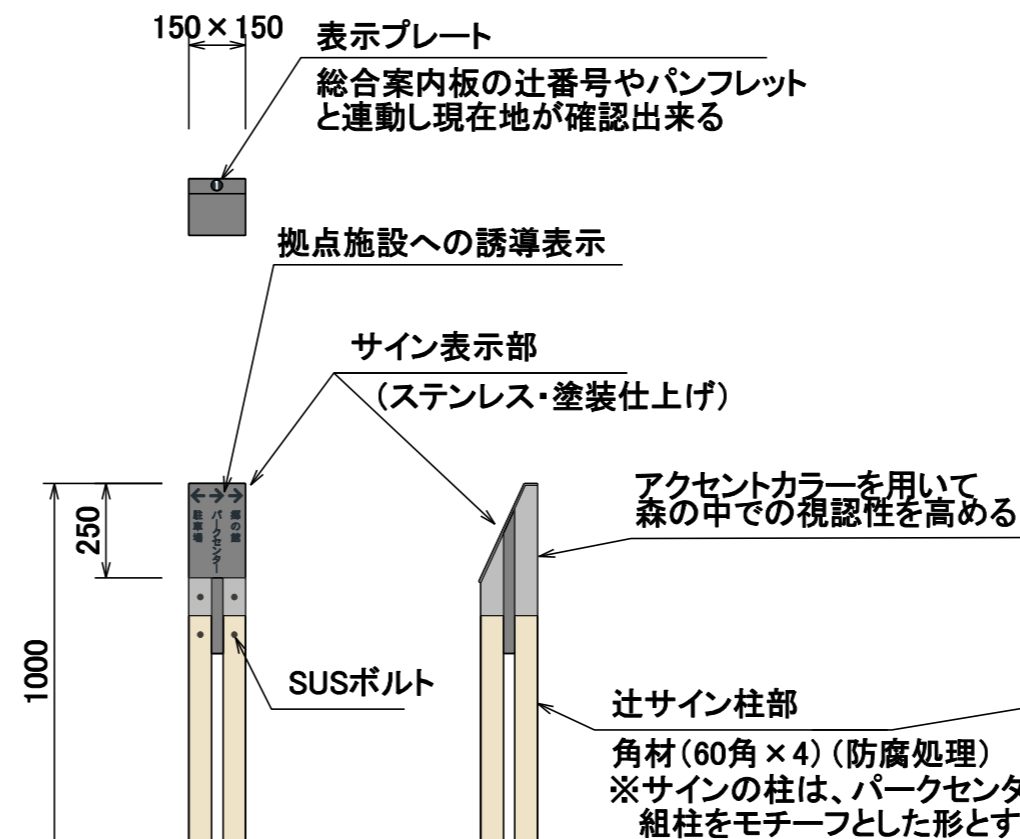
■総合案内板



■誘導辻サイン

[案-1]

- ・表示部のみステンレスプレートとし、木柱の上の部分はアクセントカラーで塗装する。



[案-2]

- ・表示部全体をステンレス製とし、アクセントカラーで塗装する。

